

氏名（本籍）	五賀 友継
学位の種類	博士（体育科学）
学位記番号	博甲第 9906 号
学位授与年月	令和 3 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	近代における弓道の形成に関する歴史的研究

主査	筑波大学教授	博士（体育科学）	齋藤 健司
副査	筑波大学教授	博士（人間科学）	真田 久
副査	筑波大学教授	博士（体育科学）	深澤 浩洋
副査	神戸大学准教授	博士（体育科学）	秋元 忍

## 論文の内容の要旨

五賀友継氏の博士学位論文は、近代における弓道の形成の歴史を検討したものである。その要旨は以下の通りである。

著者は、近世武術の1つであった弓術が近代において弓道という新たな文化として形成されたことを問題提起し、歴史学の研究方法を用いて、武道としての弓道の形成、スポーツとしての弓道の形成及び学校教育としての弓道の形成という3つの観点から近代における弓道の形成を明らかにすることを研究の目的としている。また、著者は、研究の対象時期を江戸幕府において弓術が廃止される1862年から1945年までと設定している。

第1章では、武道としての弓道の形成について、江戸幕府の講武所において弓術が廃止された1862年から弓道形の統一に関する議論が概ね決着した1941年までを研究の対象とし、武道の歴史的形成の中で弓道が受けた影響や、弓術から弓道への独自の変化を考察している。その結果、著者は、まず弓術から弓道への用語の決定的な変化が1919年に起こり、1920年以降に定着することを明らかにしている。しかし、著者は、このような用語の変化も含めた弓道概念の変化は、弓道界内部から自発的な動きによって生じたものではなく、武徳会において確立された武道概念の内容に応じて心身鍛錬などの精神面の効果が評価される形で弓道が武道として捉えられたからであることを明らかにしている。また、著者は、武道としての弓道に関する各弓道家の多様な意見が近代において存在しており、主流となる歴史的な流れが近代において形成されるまでには至らなかったことを明らかにしている。

第2章では、スポーツとしての弓道の形成について、近代において初めて全国的な弓術競技大会が武徳会によって開催された1895年から紀元二千六百年奉祝昭和天覧試合が開催された1940年までを研究の対象とし、近代においてスポーツが日本に伝来し受容される過程において弓道がスポーツからどのような影響を受けたのかを考察している。特に著者は、全国的規模の大会で初めて弓道競技規則を制定したのは1925年の第2回明治神宮競技大会であり、競技統括団体による統一された

競技規則に基づく全国的な選手権大会が初めて開催されたのは 1931 年の日本学生弓道選手権大会であることを指摘し、弓道のスポーツ化における学生弓道の影響を明らかにしている。

第 3 章では、学校教育としての弓道の形成について、学制が公布された 1872 年から中等学校体錬教授要目が発令された 1944 年までを研究の対象とし、明治維新以降の近代学校教育において弓道が学校教育の中でどのように行われ、どのような影響を受けたのかを考察している。その結果、著者は、明治維新以降の近代学校教育において弓道は正課に対して課外が先行して実施され、近代において正課として弓道が実施されたのは 10 年間であり、剣道や柔道に比べて大きく遅れていたこと、さらに戦時体制下においては軍事的有用性を有さない弓道は除外され戦時体制に組み込まれなかったことを明らかにしている。他方、弓道が正課となることに伴って女子の武道としての地位が高まったことを明らかにしている。

結章では、3つの観点の相互の連関と近代における弓道が新たな日本文化としてどのように融合して形成されたのかを総合考察している。そして、著者は、武道としての弓道が形成される以前にスポーツとしての弓道が形成され弓術の継承に一定の役割を果たしたこと、その後、武道としての弓道が形成された結果、学校教育における正課への弓道の導入が促されたこと、学校教育、特に学生弓道が弓道の競技化に重要な役割を果たすとともにスポーツとしての弓道の教育的価値の意義を高めたことを明らかにしている。最後に、著者は、近代において弓道形の統一ができなかったように、近代における弓道は、統一的、支配的な価値や概念が確立することはなく、複数の考えが並列して存在していたこと、しかしそのことが弓道を多方面の方向へと展開させ独自の発展を遂げさせたことを述べている。また、著者は、弓道が武道、スポーツ及び学校教育の下に複合的に形成された文化であることをまとめている。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

五賀友継氏の博士学位論文は、近代において形成された日本固有の文化である弓道の誕生と形成の歴史を総合的に初めて実証した歴史研究であることが高く評価される。また、著者は、各弓道団体の機関誌等定期刊行物や個別の学校の校友会誌、同窓会誌、部誌などこれまでの弓道史研究では用いられていない新たな一次史料を多く発掘し、弓道の形成の歴史を実証していることが評価される。著者が弓道の形成を武道としての弓道の形成、スポーツとしての弓道の形成及び学校教育としての弓道の形成という3つの観点から明らかしようとした独自の的方法論は、これまでの武道研究や弓道研究と異なり、日本固有の身体文化の近代における形成を複合的で多面的な歴史として捉える視角を提供するものであり独自性がある。また、この博士学位論文の研究成果は、体育・スポーツ史、弓道史、武道史、日本文化史にとって新たな近代日本における弓道という日本文化の形成に関する歴史認識を与えるものとして高く評価される。

令和3年2月8日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。